

## 8月末の防災訓練、安定ヨウ素剤事前配布、 使用済燃料の中間貯蔵・乾式貯蔵に関する質問・要望書

おおい町長 中塚 寛 様

日頃は原発事故時の避難計画等に尽力いただき、ご苦労さまです。

8月25・26日に国主導の「平成30年度原子力総合防災訓練」が実施されました。訓練当日は晴天でしたが、豪雨、地震、台風21号の被害等、「命の危険を感じる」災害が多発しています。台風21号では、道路が寸断されて孤立する地域もありました。深刻な自然災害と福島原発事故の被害の実態、緊急避難時の職員の仕事量からしても、UPZ地区でも安定ヨウ素剤を事前配布することは必要不可欠ではないでしょうか。また、名田庄地区住民のスクリーニング場所となった南丹市美山長谷運動広場は、水を使った除染ができないことが明らかになりました。「拭き取り」だけの簡易除染で住民の安全が守られるのかと危惧しています。

他方で、原発の運転継続によって、高浜・大飯原発の使用済燃料プールはひっ迫しています。福井県知事は昨年11月に大飯原発の再稼働にあたって、今年12月までに、福井県外で計画地点を明らかにするよう関電に約束させました。ところが町長は、敷地内での「乾式貯蔵も一つの選択肢」と発言されています。中間貯蔵や乾式貯蔵の後に搬出する先は決まっていません。六ヶ所再処理工場は40年の寿命で、約50年間貯蔵した後には存在しません。また、「第二再処理工場」はエネルギー庁の資料からも消え、計画の目途さえありません。このような状況で、中間貯蔵や乾式貯蔵を受け入れれば、使用済燃料は孫子の代までおおい町に居座ることになります。

福島原発事故から7年半が過ぎましたが、立地の町や周辺住民は故郷に帰ることもできず、いたるところで汚染土の詰まったフレコンバックが山積みになっています。原発事故の過酷な現実を直視して、原発継続のための中間貯蔵を受け入れないでください。

以下の質問と要望に答えてください。

### 1. 防災訓練について

#### (1) 女性職員の戸外での作業従事について

今回の訓練でも、放射線への感受性が高い若い女性職員が戸外で任務についていました。2年前の防災訓練でもそうでした。

この件については、2年前の訓練後に内閣府・規制庁との交渉で、「実際の事故時には、女性職員は外すのか」との問いに「そうなるべきだ」（内閣府）と答えました。また、その後の9月30日付の福島みずほ参議院議員への文書回答では、「福井県や京都府にこのことを伝え、指導したのか」との質問に「関係自治体には、改めて周知を実施しております」（別紙資料）と答えています。

①この2年間に、女性職員を戸外の任務に就かせないようにと、福井県等から連絡はありましたか。

②今後は、訓練でも、女性職員は戸外の任務に就かせないようにすべきではないでしょうか。

## (2) スクリーニング場所の美山長谷運動広場について

今回の訓練では、名田庄地区住民のスクリーニング場所として南丹市美山長谷運動広場が使われました。車両のスクリーニングは、関電職員が、水の入っていないバケツとビニールの包装がついたままのブラシで、「除染」訓練を行っていました。福井県職員の話では、スクリーニング会場の地元の方から「水を使わないように」との要望があったため、拭き取り除染だけになっているとのことでした。これは、訓練時だけでなく、実際に事故が起きた場合にも、この場所では水を使った除染は行わないとのことでした。

①あやべ球場などのスクリーニング場所では、水を使った除染訓練が実施されました。しかし、美山長谷運動広場のように、タイヤも含めて拭き取りだけでは、除染は不完全なままです。その結果、車両を乗り降りする住民の安全を守ることでもできず、南丹市をはじめ、避難経路や避難先、車両の一時保管場所に汚染を拡大するのではないのでしょうか。

②この場所では、実際の避難のときにも水を使った除染は行わないということを、事前に知っていましたか。

③美山長谷運動広場から 12 号線に入る際、由良川に架かる萱野橋には重量制限（9 トン）があり、大型のバスは通行できません。何台のマイクロバスが必要になるのですか。必要な台数を調達することは可能なのですか。

④美山長谷運動広場は、広場のすぐ近くに民家が多くあります。近隣住民の皆さんが、水を使った除染で出てくる汚染水で、広場やすぐ裏手を流れる由良川が汚染されることを心配されることは、当然のことです。近隣住民のこのような心配も考慮し、拭き取り除染しかできないこの場所は、スクリーニング候補地から外すべきではないのでしょうか。

## (3) 防災訓練の事故想定について

今回の防災訓練は、大飯原発と高浜原発の同時発災を想定した訓練との位置づけで、マスコミでも大きく報道されました。しかし今回の訓練の事故想定は、両原発の全面緊急事態の後、高浜原発 4 号は事故が収束し、放射能放出は大飯原発 3 号のみという内容でした。このことは、福井県防災課に確認し、福井県資料でも放射能放出は大飯原発だけとなっています。

①高浜原発は事故が収束し、放射能放出は大飯原発のみという今回の想定について、事前に県や国から知らされていなかったか。

②今回の想定では「同時発災」とはいえず、両原発事故時の放射能放出量や被ばくの影響を考慮したうえで、避難等について検討していくべきではないのでしょうか。

## 2. 安定ヨウ素剤の事前配布について

今回の訓練では、訓練会場によって、マスコミが来ている場所では医師による個別の「簡易問診」が行われましたが、そうでない場所では、個別の「簡易問診」や注意事項の説明さえありませんでした。口頭での服用指示はなく、紙に「飲んでください」とあっただけでした。

緊急避難時にアレルギーや飲んでる薬を確認することはほとんど不可能で、2 分程の簡易問診では不十分です。

おおい町議会でも、安定ヨウ素剤の事前配布について議員から質問が出されました。また、福井県議会では、嶺南地域の議員が安定ヨウ素剤の事前配布を求めています。これに対して県や町は「配布説明会等で費用がかさむ」ことなどを理由にUPZでは事前配布は行わない旨を回答しています。しかし、ご存知のように、住民説明会の費用も国の交付金から支給されます。また、県は「UPZで事前配布している府県はない」と答弁していますが、ひたちなか市、島根原発UPZの島根県4市（松江市、出雲市、雲南市、安来市）では既に実施され、鳥取県米子市・境港市でも事前配布が始まっています。

①今回の訓練で、安定ヨウ素剤配布について、住民対応に差があったのはなぜですか。

②自然災害と原発事故が重なれば、道路の寸断などで住民は孤立します。また、職員の配置等、人数的に厳しい可能性があります。住民の安全を守るために、おおい町UPZ全域で事前配布すべきではないでしょうか。

③UPZの保育所・幼稚園・学校・病院等では、備蓄は進んでいますか。

### 3. 使用済燃料の中間貯蔵・乾式貯蔵について

町長は8月28日の定例会見で、使用済燃料の保管について、原発敷地内での乾式貯蔵も「一つの選択肢としてある」と述べています。高浜町長の同趣旨の発言に続くものです。

①関電や国等から、敷地内での中間貯蔵・乾式貯蔵について打診等があったのですか。

②福井県知事は「中間貯蔵は県外で」と関電に約束させています。今回の発言にあたって、福井県と相談や議論はしているのですか。

③中間貯蔵や乾式貯蔵後の搬出先は決まっています。これらを受け入れれば、原発が廃炉になった後も、孫子の代まで核のゴミを受け入れることになるのではないのでしょうか。

## 要 望 事 項

1. 訓練であろうと、放射線の感受性の高い若い女性職員を戸外での任務に従事させないでください。
2. 拭き取り除染しか実施できない美山長谷運動広場は、スクリーニング候補地から除外するよう県に求めてください。
3. UPZの地区でも、安定ヨウ素剤の事前配布を実施してください。
4. おおい町を核のゴミ捨て場にしないために、使用済燃料の中間貯蔵や乾式貯蔵を受け入れないと表明してください。

2018.10.15 ふるさとを守る高浜・おおいの会

原発設置反対小浜市民の会

避難計画を案ずる関西連絡会（連絡先団体：グリーン・アクション/原発なしで暮らしたい丹波の会/脱原発はりまアクション/原発防災を考える兵庫の会/美浜の会）

この件の連絡先：美浜の会 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL 06-6367-6580